

和紙の里 ひおき

発行 令和 2年 7月22日
日置地区まちづくり協議会
鳥取市青谷町山根218
電話 0857-86-0836
FAX 0857-86-0837
Eメール cc-hioki@it.city.tottori.tottori.jp
題字 棚田 大さん

14号

みんなで楽しめるまちづくり協議会に

日置地区まちづくり協議会長 房安 薫



新型コロナウイルス感染の第2波が気になる昨今、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

年度の1/3が過ぎようとしている今、まちづくり協議会としても各種行事・会合等延期・中止せざるを得ない状況で今日まで来ています。早期の終息を願わずにはられません。

さて、まちづくり協議会におきましては、各部長はじめ、部員の皆様に大変お世話をかけ、努力していただいています。

地区民の皆様にも、折々にバックアップなり、声掛けをお願いしたいと思います。

梅雨も終盤を迎えますと、大雨に見舞われる事があったり、何時・何処で大きな災害にあうかわからない現在、まちづくり協議会としても対処していきたいとは思いますが、

すべてに目が届くとは思えません。

地域活性化の為に、よりよい地域にする為に、一層の努力をしたいと思えます。

日々の接し方、声掛け等、益々大切になってくると思われまます。

普段から気軽に声掛け合える様にしていきたいと思っておりますので、地区民の皆様よろしくお願い致します。

「ひおき工芸の郷」魅力発信事業に取り組んでいます

まち協工芸の郷担当 長谷川具章

令和元年度から鹿野、気高、青谷の文化・芸術、伝統工芸等の活動をテーマとした「西いなば工芸・アート村」の情報発信の取り組みが進められています。青谷では、和紙、染織、陶芸等のものづくりの魅力を活かした「ひおき工芸の郷」魅力発信事業に取り組んでおり、令和2年度に予定されている事業内容について紹介します。

先ず、1月に東京で開催された和紙生産者とスペインバルセロナ州リョッチャ美術学校との現代版画交流20周年記念展に続き、第2弾として、10月22日～29日に鳥取市内「ぎやらりーそら」において、因州和紙を使った現代版画等の作品約50点の企画展を予定しています。

また、昨年10月に蔵元の山根酒造場内で開催の「食・酒・手仕事」の会は多くの来場者で賑わいましたが、今年は仏画や曼荼羅を描く女性絵師との地元神社に祀られた山と水にゆかりの女神や自然との共存と手仕事等を題材としたトークセッション、女性書家による和紙の暖かみを再発見するワークショップ等の開催を10月18日に予定しています。

更に、来年3月中旬に、工芸工房、抄紙工場、資料館、因幡紙元祖碑、柳宗悦が逗留した願正寺等の各施設を巡る散策ウォークと作品紹介や、地元産食材を地元の工芸品で食する1日限定のひおき食堂の開設など、「ひおきまるごとミュージアム」として魅力発信を行う予定です。

新型コロナウイルス感染症という歴史的事態に遭遇している状況ではありますが、地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。



昨年11月17日開催の和紙フェスタ「三椏植え体験」で植樹した三椏です。

3月上旬には花を咲かせ、7月下旬現在は、青々とした元気な葉をたくさんつけています。

植樹者の名札もちゃんと確認できますので、和紙工房にお立ち寄りの際は、ぜひ成長の様子を観てください。

各 部 会 よ り

6月中に、延期になっていた各部会を開催し、今年度の事業計画について協議しました。

福祉部会

6月17日(水)

部会長 中宇地 節雄

健康寿命を延ばす取り組みの一環として、例年夏休み中に行っていた合同ラジオ体操と、秋に開催を予定していた健康づくり講座は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、中止せざるをえなくなりました。

来年3月に予定している健康づくりウォーキングは、実施できる条件が整えば例年どおり行いたいと考えています。

住み慣れた日置地区でいつまでも元気に暮らしていくためには、日頃からの自分の体力に合わせた適度な運動と適切な食生活が大切です。

新型コロナウイルスの感染防止と熱中症防止の対策を十分に行ったうえで、健康づくりをすすめていただき、暑い夏を乗り切ってほしいと思います。

熱中症
予防



息苦しさを感じたら
人との間隔をあけて
マスクを外し休む

特産品部会

6月5日(金)

部会長 伊藤 博光

日置地区の特産品は?と聞かれると即座に伝統のある因州和紙を思い浮かべる。食べ物ではと言われると、まったく思いつかないのが現実です。

特産品部会では、長年そば作りが活動の中心でしたが、連作障害等の影響で、このところ収穫量が上がり、ここ数年は年1回の収穫祭でのそば打ちで、地域の皆様に提供するのが精いっぱい、おおよそ特産品とは言いがたい状況になっています。そば作りは継続するものの、2~3年は連作を避ける為、栽培規模を縮小することとしました。

今年度は少し方向を変え、例えば農産物ではネギとかお米等々、比較的生産者と協力連携可能なものに取り組み、特産品づくりとしての階段を少しずつですが上って行けるようにしたいと思っています。加工品では、味噌づくりが盛んに行われており、引き続き拡大の為の支援を強めていきます。また、地域のグループによるいろんなモノづくりも継続的に活動されています。部会としても新しい特産品創出に向け、連携をしながら今年一年取り組んでいきます。



昨年度のそばの種まきの様子



昨年度の味噌づくりの様子



防災部会

6月15日(月)

部会長 長谷川 実

今年度の防災部会の取り組みとして、9月13日(日)の環境整備の後、防災訓練を予定しています。

(内 容) ①可搬ポンプによる溜池を使用した放水・消火訓練(各自警団)
第5分団指導のもと

②火災避難訓練(日置地区公民館)

訓練の後に、プール横の倉庫を、土のう作りに必要な道具を備えた防災倉庫として整備する作業を予定しています。

尚、例年体育館での講師を招いての研修会を実施していましたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止にします。

また、この7月に入って、九州、東海地方での豪雨による甚大な被害が発生しています。災害を未然に防ぐ事は大変難しいけれども、皆さんが訓練に励み、災害対応能力を向上し、安全・安心な地区づくりに頑張りましょう。



現在の内部状態

防災倉庫として整備する予定のプール横の倉庫

環境部会

6月9日(火)

部会長 秋山 節也

●環境整備【第1回:中止・第2回:7月12日(日)・第3回:9月13日(日)】

県道の缶拾い【7月12日(日)】

●日置川清掃(例年通り3月に予定)

●資源ゴミ回収ボックスの設置

「鳥取市再資源化等推進事業奨励金交付要綱」を活用し、奨励金を受け取るものです。

収入を想定すると……

新聞紙が月に1,000キロ集まったとすると

1,000キロ×6円=6,000円が奨励金として振り込まれる。

奨励金は小学校、中学校、青谷高校に寄付。

※ 年2回、小学校・中学校が資源回収をしています。年2回の回収では、小中学生・保護者の数も少なくなり、回収の負担が大きくなってきていると思います。回収ボックスが設置できると、いつでも回収でき、家庭に置いておかなくても良くなり、年2回の回収も少しは楽になるのではないかと思いますので、ぜひ回収ボックスを設置したいと思います。

7/12 環境整備



グラウンドの草刈り



県道の缶拾い